



工藤 稔行  
(公明党)

※3  
ドクターカー導入  
に向けた支援を

**問** 救急現場での救命率向上のために、救急救命士制度やドクターヘリが導入され、救命効果は飛躍的に向上した。しかし、悪天候時などドクターヘリを運用できない場合もある。

これを補う有効な手段として、全国でドクターカーの導入が進んでいる。県内でも既に3台のドクターカーが運用されており、医療機関に到着する前に迅速な初期診療を行うことで、病態の悪化を防ぎ、状態を安定させるなどの導入効果が挙げられている。助けられる命をより多くするために、市としてもドクターカー導入について支援を行うべきと考えるがどうか。

**答** 市では、独自の救急医療体制を構築し、救急救命士がすべての救急車へ同乗するなど、救命率の向上に取り組んでいる。ドクターカーの導入については、市医師会や救急告示医療機関などからなる宇都宮市救急医療対策連絡協議会において、ドクターヘリを補完する手法として意見があった。

今後、他都市における導入の背景や稼働状況、導入効果、支援措置などについて調査し、現状分析などを進めながら、市の救急医療体制におけるドクターカーの必要性などを明らかにしていく。



その他の質問項目

- ①市長の政治姿勢(安全で安心して暮らせるまちづくり、餃子のまち宇都宮としての取り組み、道路照明のLED化ほか)②多文化共生社会の実現に向けて
- ③本市農産物の販路拡大④清原北部地区の土地の有効活用
- ⑤小中学校における熱中症対策



宇賀神 文雄  
(社民党)

大谷地区戦争遺跡  
市民へ周知を

**問** 戦争遺跡の保存と周知について聞く。

①大谷地区に地下軍需工場が存在していたことを知る市民は少なくなっている。こうした戦争遺跡を通じて戦争の歴史を市民に知らせてきたのか。

②毎年11月に、民間団体が開催している大谷地区朝鮮人強制連行犠牲者追悼式についてどのような受け止めているか。

**答** ①大谷地区の地下軍需工場は、地下の採石場を利用し、軍用機の部品などを生産していた工場

で、戦争の歴史を物語る遺跡であることから、戦争体験や被害状況などをまとめた記録集「うつのみやの空襲」で解説しているほか、毎年開催している「うつのみやの戦災展」でも紹介している。

また、文化財ボランティアの養成講座や学校教員を対象とした地域文化財活用研修でも、大谷地区の地下軍需工場を取り上げるなど、市民や子どもたちに戦争の歴史を伝える人材の育成にも取り組んでいる。

その他の質問項目

- ①市長の政治姿勢(憲法アンケート、原爆被爆72年)②農業振興(主要農作物種子法の廃止への対策、農業分野におけるEPAの影響と対策など)③労働行政(市職員への処遇改善、会計年度任用職員)④LRT計画の問題(市民合意と市民理解など)



▲うつのみやの戦災展の様子



半貫 光芳  
(統一)

雀宮駅前通り  
渋滞解消に向けた  
対策を聞く

**問** 宇都宮工業高校の移転や南図書館の開設を機に、JR雀宮駅舎は橋上化し、西口駅前通りが拡幅となったが、区画整理を行わずに拡幅したため、商業地域としての機能に乏しい駅前通りとなった。

さらに、これまで10台分あった自家用車の待機場を少なくしたため、使い勝手が悪く送迎のニーズとミスマッチがおきている。駅前通りの渋滞解消に向けた、抜本的な対策を求めるとどうか。

**答** 西口駅前広場は、国が示す駅前広場計画指針に基づき、利用実態調査や需要予測、関係機関などとの協議を踏まえ、安

その他の質問項目

- ①人口減少社会に備えた行政のコンパクト化②中期財政計画
- ③未相続または所有者不在の土地(家屋の問題)④コンパクトシティ⑤ごみの減量⑥LRT事業の全体計画⑦交通ネットワークに係る予算⑧LRT事業での市民合意



▲雀宮駅西口駅前広場

全性や円滑な交通処理に配慮して面積を拡大して整備した。しかし、夕方の通勤通学の帰宅時間帯は一般車乗降場での送迎車の待機時間が長時間となっており、一時的な渋滞が生じている。

渋滞解消については、駅周辺道路の拡幅整備が完了することで、通行空間が確保され、駅前広場と一体的に交通の円滑化が図られると考えている。

また、長時間駐車している方などへ、駅前広場の利用に関するマナー向上に向けたチラシの配布や、看板の設置など周知啓発に取り組みでいく。